

日本における中上級レベルの中国語学習者の  
ビリーフと学習への取組み方  
—初級レベルの学習者との比較から—

安藤 好恵

Beliefs and Study Attitudes of Intermediate-and-  
Higher-Level Chinese Learners in Japan  
—Compared to Beginning-Level Learners

ANDOU Yoshie

提要

本文以在日本大学学习汉语的具有中高级能力的学习者对象，考察了他们的学习观念 (beliefs) 和学习态度并分析了初级班和中高级班学习者的差异。结果显示，就学习观念而言，中高级班的学习者认为“儿童比成人更容易掌握汉语”、“自己有学习汉语的特殊能力”、“汉语是个简单的语言”、“相信自己能学好汉语”、“汉语最好应该在中国学习”、“学习汉语是为了更好地理解中国人”、“发音准确是说好汉语的关键”、“学会汉语能找到好工作”等。另外，“我希望能提高自己的汉语口语能力”、“我想结交中国朋友”、“我对中国文化有兴趣”等也是中高级班学习者的学习动机。就学习态度而言，中高级班的学习者比初级班的学习者更善于讨论、更善于互动，他们自主性强，对感兴趣的事情能够积极地去学习。基于以上的分析结果，本文针对中高级班的汉语教学提出

了相关的对策。

## 1. はじめに

本研究の目的は、語学的優位性をもって入学してくる中国語学習者がどのようなビリーフを持ち、どのように学習に取り組んでいるかを明らかにすることである。筆者が所属する大学の中国語学科では、程度の差はあれ既に中国語が「できる」状態で入学してくる学習者が毎年1～2割存在する。このような学習者に対し、学科では演習形式の一部の科目に特別クラスを設けて対応し、授業外ではダブルディグリーや中国から来校した学習者との親善交流の機会、中国語関係の仕事の公募情報などを積極的に紹介し、学習支援を行ってきた。しかしこうした学習者達を一つの集団として捉え、彼らの学習観や学習実態を把握する試みはこれまであまり成されてこなかった。

安藤（2017）では、中国語学習者が学習後の未来をどのように設定しているかについて調査したが、その際初修の学習者と既に中国語ができる既習の学習者とは、目標レベルや中国語でしたいことに違いがみられた<sup>1)</sup>。語学的優位性を持つ学習者集団に何らかの特徴が存在し、さらにそれが初修学習者と異なっているならば、教師がそうした特徴を理解することは教室活動を展開する上で有意義であると思われる。

このような観点から、本研究では入学時に中上級レベルである中国語学習者の特徴について、学習に対するビリーフと学習への取り組み方を取り上げ調査した。

## 2. 先行研究

学習者のビリーフについては学習に影響を与える重要な要因の一つとして、1980年代以降多くの研究が行われてきた。その中でも Horwitz（1987）が開発した BALLI（Beliefs About Language Learning Inventory）は学習者のビリーフを測る尺度として広く用いられ、学習者のビリーフを教師が把握することの重要性が指摘されている。BALLI を応用した外国語学習領域におけ

るビリーフ研究も数多く行われており、日本語学習者のビリーフと成績との関連を調査した板井（1997、2000、2001）、張（2012）、英語学習者の学習への好意度がビリーフやストラテジーにどのような影響を及ぼしているかを調査した齊藤（2009）等がある。日本人中国語学習者を対象にした研究では三井（2017）があり、中国に留学中の学習者と日本で学んでいる学習者のビリーフに有意差は見られなかったことが報告されている。

また、学習への取組み方については、学習者の学習に対するエンゲージメントを考慮することの重要性が指摘されている。岡田ら（2011）では、学習者が大学から提供された学習の機会に対してどのように取り組んでいるのかを測るため、ベネッセ教育研究開発センター（2008）の調査項目を使用し調査を行っている。

このように、外国語学習に対するビリーフや学習への取組み方の重要性に関する研究は行われ、学習成果との関連性も指摘されているが、日本の大学における中国語学習者を対象とした研究は少なく、レベル差に配慮したものはあまりみられない。語学的優位性をもって入学してくる学習者は今後も一定数いると思われることから、彼らの集団的特徴を把握し、より効果的な指導方法や教室活動を模索することは大学教育の質保証の面からも重要であると考えらる。

以上をふまえ本研究では、入学時に中上級レベルである中国語学習者の学習に対するビリーフ及び学習への取組み方を明らかにするため、アンケート調査を用いて検討した。具体的な研究課題は以下の通りである。

- (1) 入学時に中上級レベルである中国語学習者のビリーフにはどのような特徴があるか。
- (2) 入学時に中上級レベルである中国語学習者の学習への取組み方にはどのような特徴があるか。
- (3) 入学時に中上級レベルである学習者と初修学習者のビリーフ、学習への取組み方にはどのような差異があるか。

### 3. 研究方法

#### 3.1 調査対象者

2015年～2017年に本学中国語学科に入学した1年生251名を調査対象者とした。学習者のうち希望者は入学直後に行われる中国語テスト（筆記、会話）を受験し、結果に基づき既修者クラス、準既修者クラス、一般クラスに振り分けられる。本調査では既修者クラスと準既修者クラスの学習者を中上級レベルの学習者集団、一般クラスの学習者を初修の学習者集団という2グループに分けて比較した<sup>2)</sup>。

#### 3.2 質問紙

##### 3.2.1 ビリーフ

質問紙は「中国語学習に関する意識調査」と題し、ビリーフに関する質問29項目+学習行動に関する質問2項目の計31項目から構成されている。ビリーフに関する質問は、Horwitz（1987）のBALLIを基に日本語版を作成し日本人英語学習者を対象に調査を行った齊藤（2009）、中国人日本語学習者を対象に調査を行った張（2012）等を参考とし、本学の学習者向けに文章の変更を行った。ビリーフに関する質問29項目は、「言語学習の適性」「言語学習の難易度」「言語学習の性質」「コミュニケーション・ストラテジー」「言語学習の動機」の5領域から成り、回答は「5（とてもあてはまる）」、「4（まああてはまる）」、「3（どちらともいえない）」、「2（あまりあてはまらない）」、「1（全くあてはまらない）」の5件法で求めた。学習行動に関する質問2項目は筆者が独自に作成し、回答は「1（はい）」、「0（いいえ）」の2件法で求めた。

##### 3.2.2 学習への取り組み方

質問紙は、ベネッセ教育総合研究所の調査「大学での学習」に用いられた25項目で構成されている。「あなたは大学での授業に、ふだんからどのように取り組んでいますか」と質問し、回答は「4（とてもあてはまる）」、「3（ま

あてはまる)」、「2（あまりあてはまらない）」、「1（全くあてはまらない）」の4件法で求めた。

### 3.3 手続き

データ数を確保するため、入学年度の異なる学習者のデータを積み上げた。2015年12月に学習への取組み方に関する調査、2016年12月にピリーフに関する調査、2017年12月にピリーフと学習への取組み方に関する調査を行った<sup>3)</sup>。表1にデータ収集に関する詳細を示す。アンケート調査は教育研究目的のための調査であること、調査結果は成績に一切影響しないことをフェイスシートに明記し、配布時に口頭で伝えた。調査用紙には学籍番号を記入してもらい、データ間の統合を行った。

表1 調査項目、実施年度、対象者数

	学習への取組み方		ピリーフ	
	2015年	2017年	2016年	2017年
既修者+準既修者	22人	6人	26人	7人
一般	54人	60人	77人	65人

### 3.4 分析方法

既修者、準既修者クラスと一般クラスについて、ピリーフと学習への取組み方の各項目の平均値と標準偏差を算出し、t検定を行った。分析にはIBM SPSS Statistics 25を用いた。分析に先立ち、入学時の語学的優位性が調査時にも保たれているかを確認するため、アンケート調査と同日に行われた学科試験<sup>4)</sup>の得点を用いて、既修者+準既修者クラスの得点と一般クラスの得点についてt検定を行ったところ、全ての年度において有意差が認められた<sup>5)</sup>。

## 4. 結果と考察

### 4.1 ビリーフ

中国語学習に関するビリーフについて、クラス別に各項目の平均値と標準偏差を算出し、t検定を行った。結果を表2に示す。項目平均値は5に近づくほど肯定的である。

「言語学習の適性」領域では既修者+準既修者クラスの学習者は、項目1「大人より子どもの方が中国語を学習するのはやさしい」、項目5「だれでも中国語が話せるようになる」についてそう考えている学習者が多いことがわかった。一般クラスとの比較では項目1、4の2項目に有意差が見られた。項目4については、一般クラスではこの領域での平均値が最も低く、否定的に考える学習者が多かったのに対し、既修者+準既修者クラスの学習者は特にそう考えていない傾向が示された。

「言語学習の難易度」領域では、項目7「私は中国語を今以上に、上手に話せるようになると思う」の平均値が高く、学習に困難さを感じている学習者は少ないことがわかった。項目8「中国語を話すことは、聞くことよりやさしい」、項目9「中国語は、話したり聞いたりするより、読んだり書いたりする方がやさしい」についてはあまり差がなく、4技能のどれかが突出して習得しやすいとは考えていないことがわかった。一般クラスとの比較では項目6、7の2項目に有意差が見られ、一般クラスでは、中国語は難しいことばだと考えている学習者が多いのに対し、既修者+準既修者クラスの学習者は特にそう考えてはいない傾向が示された。

「言語学習の性質」領域では、項目10「中国語は中国で学習するのが一番いい」、項目11「中国語を話すためには、中国の文化について知る必要がある」と考えている学習者が多いことがわかった。項目12「中国語学習でいちばん大切なのは、単語の学習だ」、項目13「中国語学習でいちばん大切なのは、文法の学習だ」、項目14「中国語学習大切なのは、日本語からの翻訳の方法を学ぶことだ」では単語、文法、翻訳の順に平均値が高く、単語の学習を重視している学習者がやや多いことがわかった。一般クラスとの比較で

表2 クラス別ビリーフの平均値と標準偏差

内容	既習+準既 (N=32)		一般 (N=141)		t 値
	M	SD	M	SD	
言語学習の適性					
1 大人より子どもの方が中国語を学習するのはやさしい	4.15	0.834	3.60	0.869	3.289**
2 中国語を学習する特別な能力を持っている人がある	3.27	0.977	3.01	1.165	1.181
3 日本人は中国語の学習が得意だ	3.12	0.857	3.11	0.946	0.082
4 私は中国語を学習する特別な能力を持っている	3.27	1.153	2.12	1.118	5.298**
5 だれでも中国語が話せるようになる	3.82	0.983	3.43	1.050	1.956
言語学習の難易度					
6 中国語は、簡単なことばだ	3.09	1.284	2.33	1.113	3.417**
7 私は中国語を今以上に、上手に話せるようになると思う	4.39	0.747	3.67	1.100	3.605**
8 中国語を話すことは、聞くことよりやさしい	3.27	1.008	2.98	1.031	1.480
9 中国語は、話したり聞いたりするより、読んだり書いたりする方がやさしい	3.18	1.334	3.49	0.995	-1.261
言語学習の性質					
10 中国語は中国で学習するのが一番いい	4.42	0.751	3.77	0.965	3.657**
11 中国語を話すためには、中国の文化について知る必要がある	4.00	1.031	3.44	1.007	2.883**
12 中国語学習で一番大切なのは、単語の学習だ	3.85	0.906	3.71	0.807	0.872
13 中国語学習で一番大切なのは、文法の学習だ	3.73	0.876	3.58	0.909	0.818
14 中国語学習で大切なのは、日本語からの翻訳の方法を学ぶことだ	3.42	1.091	3.33	0.734	0.479
コミュニケーション・ストラテジー					
15 正しい発音で中国語を話すことは大切である	4.79	0.415	4.50	0.725	3.039**

16	正しく言えるようになるまでは、中国語で話してはいけない	2.13	1.238	2.06	0.980	0.294
17	中国人と中国語の学習をするのは楽しい	3.97	1.092	3.57	1.067	1.892
18	中国語でわからない言葉があったら、自分で意味を推測してもいい	3.61	1.029	3.22	1.018	1.966
19	中国語を繰り返し練習することは重要だ	4.36	0.822	4.49	0.681	-0.892
20	私は、他の人と中国語を話すことに不安を感じて臆病になる	2.82	1.590	3.23	1.088	-1.397
21	中国語学習を始めた最初の時期に中国語の間違いを直されないと、後で正確に話すことが難しくなる	3.73	1.376	3.99	0.886	-1.031
22	Audio Visual 機器や素材を使い、中国語を練習することは大切だ	3.39	1.144	3.95	0.902	-3.029**
言語学習の動機						
23	日本人は、中国語を話すことは重要だと思っている	3.27	0.977	3.26	1.001	0.063
24	私が中国語を学習するのは、中国人をもっと理解したいからだ	3.82	1.103	2.97	1.123	3.912**
25	中国語を学習したら、良い仕事のチャンスがあるだろう	4.58	0.614	4.09	0.914	2.892**
26	私は中国語が上手に話せるようになりたい	4.73	0.517	4.39	0.849	2.962**
27	私は中国人の友達がほしい	4.39	0.827	3.74	1.177	3.749**
28	私は中国の文化に興味を持っている	4.18	0.846	3.51	1.177	3.765**
29	私は本当は他の学科で勉強したかったが、入試の点数が足りなかったので、仕方なく中国語学科に入った	1.88	1.341	2.57	1.440	-2.529*
独自項目（学習行動）						
30	授業以外に、外部の語学学校、クラブ活動、家庭教師などで中国語を学んでいますか	0.24	0.435	0.07	0.257	2.184*
31	外部の中国語試験（HSK、中国語検定など）を受験したことがありますか	0.67	0.479	0.08	0.268	6.826**

\*\*p<.01, \*p<.05



は項目10、11の2項目に有意差が見られ、既修者+準既修者クラスの学習者は現地での学習や文化を知ることが重視する傾向が示された。

「コミュニケーション・ストラテジー」領域では、項目15「正しい発音で中国語を話すことは大切である」、項目19「中国語を繰り返し練習することは重要だ」、項目17「中国人と中国語の学習をするのは楽しい」については多くの学習者がそう考えていることがわかった。項目20「私は、他の人と中国語を話すことに不安を感じて臆病になる」、項目16「正しく言えるようになるまでは、中国語で話してはいけない」についてはそう考えていない学習者が多く、否定的な傾向が示された。一般クラスとの比較では項目15、22の2項目に有意差が見られ、このうち項目22は一般クラスの方が有意に高かった。このことから既修者+準既修者クラスの学習者は正しい発音で話すことは大切だと考えているが、音声機器を使用した学習に対してはあまり重要性を感じていない傾向が示された。

「言語学習の動機」領域では、項目26「私は中国語が上手に話せるようになりたい」、項目25「中国語を学習したら、良い仕事のチャンスがあるだろう」、項目27「私は中国人の友達がほしい」、項目28「私は中国の文化に興味を持っている」、項目24「私が中国語を学習するのは、中国人をもっと理解したいからだ」について多くの学習者がそう感じており、内発的動機づけと外発的動機づけの双方の動機づけの存在が確認された。項目29「私は本当は他の学科で勉強したかったが、入試の点数が足りなかったので、仕方なく中国語学科に入った」については平均値が低く、不本意な入学をしたと考えている学習者は少ないことがわかった。一般クラスとの比較では項目24、25、26、27、28、29の6項目に有意差が見られ、学習を支える動機づけの強さが示された。

独自に作成した項目30「授業以外に、外部の語学学校、クラブ活動、家庭教師などで中国語を学んでいますか」と項目31「外部の中国語試験（HSK、中国語検定など）を受験したことがありますか」は平均値が1に近づくほど肯定的である。2項目とも一般クラスより有意に高く、既修者+準既修者ク

ラスの学習者は1年次から資格試験を受験するなど、積極的な学習行動を取っていることが明らかになった。

## 4.2 学習への取り組み方

中国語学習への取り組み方について、クラス別に各項目の平均値と標準偏差を算出し、t検定を行った。結果を表3に示す。項目平均値は4に近づくほど肯定的である。

全体を通して、一般クラスとの比較で有意差が見られた項目は12項目あり、項目7「授業でわからなかったことは先生に質問する」、項目9「レポートやテストを提出する前に見直す」、項目16「授業でわからなかったことは、自分で調べる」、項目17「授業でわからなかったことについて自主的に勉強する」、項目21「資格や免許の取得をめざして勉強する」などの自主的に学習へ取り組む姿勢が示された。また、項目10「クラス全員の前で、積極的に質問や発言をする」、項目11「グループワークやディスカッションで自分の意見を言う」、項目12「グループワークやディスカッションでは、積極的に貢献する」、項目13「グループワークやディスカッションでは、進んでまとめ役をする」、項目14「グループワークやディスカッションでは、異なる意見や立場に配慮する」、項目20「グループワーク以外で、友だちと一緒に勉強する」など、グループワークやディスカッションなどの教室活動に積極的に参加する姿勢や、クラスメートや友人との関係性を重んじる傾向も示された。なお項目22「大学以外の学校などに通って勉強する」は平均値が1.93と低かったが、一般クラスの平均値がより低かったため有意となった。また一般クラスより平均値が低い項目は、項目1「授業の予習をする」、項目2「授業に必要な教科書、資料、ノートなどを毎回持参する」、項目3「授業に遅刻しないようにする」、項目4「履修登録した科目は途中で投げ出さない」、項目6「授業中に私語をしない」、項目15「授業の復習をする」であった。

以上のことから既修者+準既修者クラスの学習者の傾向として、授業の予習や復習はあまりしないが、興味があることやわからなかったことについて

表3 クラス別学習への取組み方の平均値と標準偏差

内容	既習 + 準既 (N=27)		一般 (N=112)		t 値
	M	SD	M	SD	
1. 授業の予習をする	2.00	0.770	2.18	0.858	-0.996
2. 授業に必要な教科書、資料、ノートなどを毎回持参する	3.32	0.905	3.64	0.613	-1.750
3. 授業に遅刻しないようにする	3.18	0.670	3.19	0.800	-0.098
4. 履修登録した科目は途中で投げ出さない	3.18	0.723	3.19	0.875	-0.101
5. 授業中は黒板に書かれていない内容もノートにとる	2.96	0.922	2.71	0.883	1.363
6. 授業中に私語をしない	2.89	0.786	3.02	0.790	-0.749
7. 授業でわからなかったことは先生に質問する	3.04	0.922	2.59	0.919	2.314*
8. 授業で出された宿題や課題はきちんとやる	3.18	0.723	2.95	0.754	1.467
9. レポートやテストを提出する前に見直す	3.32	0.670	3.01	0.762	1.988*
10. クラス全員の前で、積極的に質問や発言をする	2.86	1.044	2.14	0.822	3.376**
11. グループワークやディスカッションで自分の意見を言う	3.00	0.816	2.61	0.828	2.233*
12. グループワークやディスカッションでは、積極的に貢献する	3.11	0.786	2.53	0.867	3.205**
13. グループワークやディスカッションでは、進んでまとめ役をする	2.82	0.863	2.16	0.879	3.558**
14. グループワークやディスカッションでは、異なる意見や立場に配慮する	3.00	0.667	2.54	0.920	3.034**
15. 授業の復習をする	2.21	0.630	2.46	0.837	-1.687
16. 授業でわからなかったことは、自分で調べる	3.14	0.705	2.79	0.737	2.301*
17. 授業でわからなかったことについて自主的に勉強する	3.14	0.891	2.58	0.853	3.077**
18. 授業で配布された資料などを整理する	3.18	0.772	2.95	0.800	1.381

19. 授業とは関係なく、興味をもったことについて自主的に勉強する	2.79	0.738	2.71	0.845	0.461
20. グループワーク以外で、友だちと一緒に勉強する	3.00	0.720	2.54	0.909	2.829**
21. 資格や免許の取得をめざして勉強する	3.11	0.801	2.55	0.938	3.136**
22. 大学以外の学校などに通って勉強する	1.93	1.072	1.50	0.761	2.418*
23. 計画を立てて勉強する	2.61	0.916	2.36	0.929	1.277
24. 自分の意志で継続的に勉強する	2.79	0.787	2.54	0.916	1.305
25. できる限り良い成績を取ろうとする	3.36	0.621	3.25	0.714	0.743

\*\*p<.01, \*p<.05

は自主的に学習し、グループワークやディスカッションなど協働型の授業には積極的に参加する姿勢が示された。

## 5. まとめと今後の課題

本研究は入学時に中上級レベルである学習者について、学習に対するビリーフと学習への取組み方を調査し初修の学習者と比較することでその集団の特徴を明らかにすることを目的とするものであった。研究課題別の結果は以下の通りである。

(1) 入学時に中上級レベルである中国語学習者のビリーフとして、子どもの方が学習しやすいと考えていること、学習に困難さを感じていないこと、中国での学習や中国の文化を知ることが大切だと考え、発音、繰り返し練習を重視し、上達したい、中国人の友達がほしいなどの内発的動機づけや仕事のチャンスがあるなど外発的動機づけが高い傾向が示された。一方で正しく言えるようになるまでは話してはいけない、話すときに不安を感じる、不本意な入学をしたなどについては否定的な傾向が示された。

(2) 入学時に中上級レベルである中国語学習者の学習への取組み方については、できる限り良い成績を取ろうとする気持ちが強く、授業に必要な道具を持参し宿題などもきちんとやろうとする傾向が示された。一方で大学以外

の学校に通う、授業の予習、復習をするなどには消極的な傾向が示された。

(3) 入学時に中上級レベルである学習者と初修の学習者の間の差異については、ビリーフでは入学時に中上級レベルである学習者は初修の学習者に比べて、中国語の習得に困難さを感じる度合いが低く、自分は特別な学習能力を持っていて、上手に話せるようになりたいし、そうなれるとも考えている。中国での学習、中国の文化を知ること、正しい発音で話すことを重視し、中国や中国人に対し興味をもち、理解したい、友達になりたい、中国語を仕事に使いたいという気持ちが強い傾向が示された。一方で音声機器を使用した学習には消極的な傾向が示された。

学習への取り組み方では、入学時に中上級レベルである学習者は初修の学習者に比べて自主的に学習へ取組む姿勢や協働型の授業に積極的に参加する傾向が示された。

これらの結果から、入学時に中上級レベルの学習者に対しては、彼らの興味やモチベーションを引き出すようなテーマに基づく協働型の授業を中心に、グループワーク作業に必要な準備や授業のふり返りを自宅学習として課すような授業設計が考えられる。一方でこうした学習者は1年次から留学や資格取得を目指す傾向があり、それ自体は望ましいことなのだが、ともすれば目的を達成した後に中だるみ状態に陥りやすい。2年次に留学し帰国した学習者や、中検準1級やHSK6級を取得した学習者に対し、3、4年次にどのような指導をしていけばよいのかは今後検討していかなければならない課題である。また今回の調査では、他の要因との関連性についての検討がなされていない。今回得られた調査結果が学習成果などどのように結びついているか、今後明らかにしていく必要がある。

## 注

- 1) 安藤（2017）で得られたデータを用いて、初修の学習者と既習の学習者の目標レベル、中国語でしたいことについて $\chi^2$ 検定を用いて分析したところ、有意な差が見られた。 $\chi^2$ 検定の結果と残差から、卒業までの目標レベルでは、既習学習者は

「中国人と中国語でディスカッションしたり、中国語でスピーチができる上級レベル」を目指す人が初修の学習者より多いと解釈できる ( $\chi^2=39.558, df=2, p<.01$ )。中国語でしたいことについては、既習学習者は「仕事」と回答した人が初修の学習者より多いと解釈できる ( $\chi^2=12.990, df=2, p<.01$ )。

- 2) 既修者、準既修者クラスの学習者の背景は多様であり、高校で第二外国語として中国語を選択した以外にも、幼少期を中国で過ごしたり、中国語を話す家庭環境であったなど、国籍や母語で一概に分けることが難しい要素を含んでいる。本研究の調査の主眼は入学時に一定の語学レベルを備えているかどうかであるため、今回は既修者、準既修者クラスの学習者を更に層別することはしなかった。なお、本調査で使用したビリーフの質問項目には「日本人は～」から始まるものが2項目(項目3、23)含まれているが、回答に大きな影響はないと考えた。
- 3) 2017年のみ、同一の学習者集団に対しビリーフと学習への取組み方の調査を実施した。ただし別日に実施したため回答者数に違いがある。
- 4) 学習到達度を測る中国語の試験(50点満点)で、1年生の調査対象者は全員がこの試験を受験している。試験内容は準既修者と一般クラスで使用した同一のテキストから出題された。試験問題の作成には筆者も含めた学科の教員があたり、年度によって問題構成や難易度に大きな差が出ないように配慮した。試験範囲はあらかじめ学習者に伝えられてあった。なお、既修者クラスは当該テキストは使用していない。
- 5) 各年度におけるクラス別得点結果を以下に示す。

	既修者+準既修者クラス			一般クラス			t 値
	人数	平均点	SD	人数	平均点	SD	
2015年	22	43.00	6.845	54	24.35	10.156	9.278**
2016年	26	45.88	5.164	77	29.91	11.24	9.783**
2017年	7	48.14	1.773	65	30.02	12.793	10.524**

\*\* $p<.01$

## 参考文献

- 安藤好恵 2017. 「中国語専攻学習者の学習開始時における動機づけの分析—学生アンケートの自由記述分析から—」大東文化大学教職課程センター紀要(2), 105-110.

- 板井美佐 1997. 「言語学習についての中国人学習者の BELIEFS—上海復旦大学のアンケート調査より—」筑波大学留学生センター日本語教育論集(12). 63-88.
- 板井美佐 2000. 「中国人学習者の日本語学習に対する BELIEFS について—香港4大学のアンケート調査から—」『日本語教育』104号 69-78.
- 板井美佐 2001. 「香港における中国人学習者の日本語学習に対する動機(BF)、学習ST及び学習活動上の好みに関する調査: 香港4大学機関の調査から」筑波大学留学生センター日本語教育論集(16). 83-104.
- 岡田有司・鳥居朋子・宮浦崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路 2011. 「大学生における学習スタイルの違いと学習成果」立命館高等教育研究(11), 167-181.
- 岡田有司・鳥居朋子 2011. 「私立大学における大学生の学習成果の規定要因—ユニバーサル・アクセス時代における多様性と質保証の視点から—」京都大学高等教育研究第17号, 15-26.
- 齊藤良子 2009. 「英語学習に対する好意の学習ビリーフと学習ストラテジーへの影響」『外国語教育学研究のフロンティア—四技能から異文化理解まで—』成美堂, 164-176.
- 張麗珺 2012. 「中国の大学における日本語学習者のビリーフと成績の関連に関する一考察」『第9回国際日本語教育・日本研究シンポジウム予稿集』1-8.
- 橋本洋二 1993. 「言語学習についての BELIEFS 把握のための試み—BALLI を用いて—」筑波大学留学生センター日本語教育論集(8). 215-241.
- ベネッセ教育総合研究所 2008. 『第1回大学生の学習・生活実態調査報告書』[https://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/daigaku\\_jittai/hon/daigaku\\_jittai\\_3\\_1\\_3.html](https://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/daigaku_jittai/hon/daigaku_jittai_3_1_3.html)
- 三井明子 2017. 「日本的漢語学習観念研究—基于在华与在日汉语学习者的问卷调查及访谈—」『中国語教育』第15号, 125-146.
- Horwitz, E. K. 1987. Surveying student beliefs about language learning. In A. Wenden & J. Rubin (Eds.), *Learner Strategies in Language Learning*. Prentice Hall. 119-129.
- Horwitz, E. K. 1988. The beliefs about language learning of beginning university foreign language students. *The Modern Language Journal*. 72(3). 283-294.